

3. 2 協会・支部等の活動事例

各地の建設業協会や支部・部会は、自然災害の応急復旧活動を始め、防災支援、地域活性化の取組、河川・道路清掃や植樹などの環境美化、各種催し等による住民とのふれあいなど、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

平成 30 年度に顕彰した協会・支部等のこうした活動事例の中から、3. 1 で紹介した代表事例のほか、ここでは次の 16 事例を紹介します。

No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A1-01	新潟県	(一社)新潟県建設業協会新潟支部・長岡支部・六日町支部	豪雪に伴う新潟県内の広域的除排雪支援
A1-02	長野県	長野県建設業協会松筑支部・長野支部・大北支部	豪雪に伴う福井県に対する道路除雪支援
A1-03	福井県	(一社)坂井郡建設業協会	豪雪に伴う福井県内の応急復旧除雪支援
A1-04	佐賀県	(一社)唐津建設業協会	台風 21 号による海岸漂着ゴミ撤去支援
A2-01	群馬県	(一社)群馬県建設業協会	「ぐんケン見張るくん」による災害情報発信
A3-01	岩手県	岩手県建設業女性マネジングスタッフ協議会北上支部	いわて北上マラソン大会の給水ボランティア活動
A3-02	富山県	富山県建設業協会富山支部青年部会	「おわら風の盆」の臨時駐車場の整備活動
A3-03	愛媛県	(一社)愛媛県建設業協会	えひめ国体・えひめ大会の応援隊活動
A4-01	茨城県	(一社)茨城県建設業協会大子支部	特定外来生物オオキンケイギクの駆除活動
A4-02	京都府	京都府建設業協会亀岡支部	「土木の日」農業用水路の点検・清掃活動
A4-03	京都府	京都府建設業協会宮津支部	「道の日」道路クリーンキャンペーン活動
A4-04	山口県	山口県建設業協会萩支部	河川・海岸の一斉清掃活動
A5-01	岩手県	岩手県建設業協会花巻支部青年部会	小・中学校における体験学習の実施
A5-02	秋田県	(一社)能代山本建設業協会	中学校の施設整備と重機試乗体験の実施
A6-02	千葉県	(一社)千葉県建設業協会	小・中学生向け建設機械体験学習会の開催
A6-03	山梨県	(一社)甲府地区建設業協会	公園緑地のジャーマンアイリス植栽管理

(1) 災害復旧支援活動

事例 A1-01 : 新潟県

豪雪に伴う新潟県内の広域的除排雪支援（(一社)新潟県建設業協会新潟支部・長岡支部・六日町支部）

平成 30 年 2 月 8 日、新潟県中越地方は激しい降雪が続き、見附市内においては除排雪が間に合わない事態となった。こうした状況を受け、新潟県は翌 9 日、「災害時の応援業務に関する協定」に基づき、新潟県建設業協会に広域的な除排雪支援を要請した。

同協会は 2 月 10 日、管内の降雪状況を踏まえて、応援が可能であった新潟、長岡、六日町の各支部の会員企業 10 社から、ロータリーとダンプトラック延べ 43 台を派遣した。

各社は一丸となって道路の除排雪作業にあたり、3 日間で無事復旧作業を完了した。



ロータリーによる除排雪作業



除排雪完了後の見附市内

事例 A1-02 : 長野県

豪雪に伴う福井県に対する道路除雪支援（長野県建設業協会松筑支部・長野支部・大北支部）

平成 30 年 2 月、福井県下は記録的な大雪に見舞われ、県知事は 2 月 13 日、「災害時等の応援に関する協定」に基づき、中部 9 県 1 市に対して除雪車両の派遣を要請した。

長野県建設業協会は、長野県からの要請を受けて、松筑支部、長野支部及び大北支部の会員企業 7 社から、除雪機械 14 台（ロータリー除雪車 2 台、スノーローダ 5 台、ダンプトラック 7 台）とオペレーター 19 名を派遣した。各社は 2 月 14 日から 4 日間、昼夜兼行で道路の除排雪作業を行い、早期の通行止め解除に貢献した。



国道の除雪作業



夜間作業による路肩の除排雪

事例 A1-03 : 福井県

豪雪に伴う福井県内の応急復旧除雪支援 ((一社)坂井郡建設業協会)

平成 30 年 2 月、福井県福井市、坂井市、あわら市において、積雪が 140cm を超える大雪となり、国道 8 号線では 1,500 台の車が立ち往生する非常事態となった。

坂井郡建設業協会の会員各社は、国・県・市からの出動要請を受け、不眠不休の体制で除雪作業を行なった。各社は、進捗状況や積雪状況により、請負区間外へも臨機に応援に向かうとともに、民間商業施設等からの除雪依頼にも柔軟に対応した。さらに、除雪によって道路に積み上がった雪山の除去や歩道の除雪作業も並行して行い、安全な通行確保と市民生活の回復に尽力した。



深夜の除雪作業 (あわら市)



歩道の除雪作業 (坂井町)

事例 A1-04 : 佐賀県

台風 21 号による海岸漂着ゴミ撤去支援 ((一社)唐津建設業協会)

平成 29 年 10 月、台風 21 号が通過した佐賀県では、名勝「虹ノ松原」を含む広範囲な海岸線に大量のゴミが漂着し、11 月 2 日から開催を予定している「唐津くんち」までに撤去できる目途が立たない状況となっていた。

10 月 28 日、唐津土木事務所から相談を受けた唐津建設業協会は、災害協定に基づき、漂着ゴミの撤去・処理作業に早急に着手すべく、会員全社に出動を要請し、撤去場所の確認・割当てを行なった。場所が砂浜や岸壁などである上、大小様々な漂着物が混在しているため、全て人力での作業となり、時間との戦いとなったが、各社とも懸命に取り組んだ結果、「唐津くんち」の前日には無事撤去を完了することができた。



海岸漂着ゴミの撤去作業



撤去した大量のゴミ

(2) 防災支援活動

事例 A2-01：群馬県

「ぐんケン見張るくん」による災害情報発信（(一社)群馬県建設業協会）

群馬県建設業協会は、平成20年度に民間団体主導では初となる「GPS携帯による災害情報共有システム」を構築し、会員企業からの災害情報を官民で共有してきた。その後、スマートフォンの普及やSNS利用者の拡大に伴ってシステムを見直し、平成26年12月、ツイッターを活用した新・災害情報共有システム「ぐんケン見張るくん」を立ち上げた。

これは、同協会が平成26年2月の豪雪を機に開設したツイッターアカウントと連動し、会員からの報告を一旦事務局で精査し、確認が出来た情報をツイッターで発信するシステムで、現在、フォロワーは3,500人を超え、災害や豪雪被害の発生時には、多くのフォロワーから感謝や励ましの投稿がある。また、業界紙や地元新聞、テレビのニュース番組でも画像が使われており、取り組みは着実に広がりを見せている。

ツイッターアカウントは、地元自治体などの防災アカウントと相互フォローをしており、自治体や国交省出先事務所が協会の投稿をリツイートするなど、認知度が高まっている。

群馬県では、各土木事務所と建設業協会支部とで締結している細目協定において、システムの有効活用が明記され、年に一度、土木事務所単位で実施している災害図上訓練の際にも「ぐんケン見張るくん」が活用されている。

同協会では、システムへの投稿に関する会員企業の確認と訓練を兼ねて、毎年5月30日に実施している道路クリーン作戦において、作業状況を県下一斉に報告し、ツイッター上で紹介している。災害時のみならず、こうした日頃の活動においても「ぐんケン見張るくん」を活用してフォロワーを増やすことで、一般の方々の建設業への理解がさらに促進されることを期待している。



「ぐんケン見張るくん」システムの情報の流れ



孺恋村の降雪情報



片品村の通行止め解除情報

(3) 地域活性化活動

事例 A3-01：岩手県

いわて北上マラソン大会の給水ボランティア活動（岩手県建設業女性マネジングスタッフ協議会北上支部）

岩手県建設業協会女性マネジングスタッフ協議会北上支部は、地元で開催される日本陸連公認「いわて北上マラソン大会」で、給水ボランティアスタッフとして活動している。

この大会は、北上市がスポーツ振興策の一環として 2001 年から毎年 10 月上旬に開催しているもので、同支部では、毎年約 10 名の会員が参加し、二子町仲居俵の新幹線高架下に設置される第 6 給水所 (27.5km) で、スペシャルドリンクやスポーツドリンク等を選手が取りやすいように並べるとともに、使用されたコップ等を回収している。

同支部スタッフの丁寧な対応は評判が良く、大会事務局からも期待されている。



第 6 給水所でのドリンク準備



ドリンクを手にするランナーたち

事例 A3-02：富山県

「おわら風の盆」の臨時駐車場の整備活動（富山県建設業協会富山支部青年部会）

富山県建設業協会富山支部青年部会は、平成 26 年より、富山市八尾町の伝統行事「おわら風の盆」(9 月 1 日～3 日)の臨時駐車場を、ボランティア活動として整備している。

平成 29 年は、8 月 19 日、同部会の会員 81 名が参加して、井田川河川敷の雑草の刈り取り及び安全柵の設置を行い、約 2 万㎡ (800 台分) の駐車場を整備した。

同部会では、地域に根差した建設業を目指しており、県内外から訪れる観光客に喜んで利用してもらえるよう、今後も活動を継続したいとしている。



河川敷駐車場の草刈り



安全柵のロープ設置

事例 A3-03 : 愛媛県

えひめ国体・えひめ大会の応援隊活動（(一社)愛媛県建設業協会）

平成 29 年 10 月、愛媛県で第 72 回国民体育大会（愛称：愛顔つなぐえひめ国体）、第 17 回全国障害者スポーツ大会（愛称：愛顔つなぐえひめ大会）が開催された。

これは、昭和 28 年に四国 4 県で共同開催されて以来、64 年ぶりのことであり、愛媛県民は「つなげよう愛顔（えがお）運動」を展開して、両大会を大いに盛り上げた。

愛媛県建設業協会 12 支部（4 部会含む）では、組織を挙げて大会前のボランティア清掃、除草活動を行うとともに、いち早くそれぞれの大会の応援隊を結成し、各地域において建設業の特長を活かした応援・ボランティア活動を実施した。さらに、同大会広報サポーター制度にも協力し、協会本部及び 12 支部の事務所出入口等に、広報用のぼり・ポスターを掲示した。

同協会は、大会前のボランティア活動に当たって、統一ベスト 550 枚を購入して着用したが、今後もこうした機会を活かして業界のイメージアップに努めたいと考えている。



路肩の清掃



えひめ国体・えひめ大会応援隊結成式



愛顔（えがお）つなぐえひめ国体



愛顔つなぐえひめ大会

(4) 環境美化・保全活動

事例 A4-01 : 茨城県

特定外来生物オオキンケイギクの駆除活動 ((一社)茨城県建設業協会大子支部)

茨城県建設業協会大子支部では、環境保全活動の一環として、平成 27 年より、特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除作業を行っている。

オオキンケイギクは、繁殖力が極めて高く、在来植物に替わり景観を一変させてしまうことから、平成 18 年には特定外来生物に指定され、栽培や販売等が禁止された。しかし、指定以前は自由に販売され、道路工事などの緑化資材としても用いられたことから、今でも身近な場所で広範囲に自生している。

平成 29 年度は、5 月 25 日、会員 19 社から約 40 人が参加して、大子町内の国道 118 号線沿いの約 1km にわたって駆除作業を行い、総重量 1,750 kg を袋詰めにして回収した。

同支部は、地域の自然環境を守るため、今後もこうした活動に力を入れたいとしている。



繁茂するオオキンケイギクの駆除



歩道脇の駆除作業

事例 A4-02 : 京都府

「土木の日」農業用水路の点検・清掃活動 (京都府建設業協会亀岡支部)

京都府建設業協会亀岡支部は、「土木の日」(11 月 18 日)の活動として、地域の農業用水路の点検・清掃活動を行っている。

平成 29 年度は、会員約 60 名が参加して、府道沿いの農業用水路約 900m にわたって、損傷箇所の点検、堆積した汚泥や水草、藁などの撤去作業を行った。

同支部は、毎年「土木の日」に幹線道路の清掃活動を実施していたが、近年は台風被害が連続していることから、平成 28 年、亀岡市内の 13 土地改良区と「大規模災害発生時における緊急対応に関する協定」を締結し、災害対策の一環として本活動へと移行した。



農業用水路に堆積した汚泥の撤去

事例 A4-03 : 京都府

「道の日」道路クリーンキャンペーン活動（京都府建設業協会宮津支部）

京都府建設業協会宮津支部は、毎年 8 月、道路ふれあい月間に合わせて、地元の府立宮津高校の生徒とともに、宮津市街、天橋立周辺、与謝野付近で「道の日」道路クリーンキャンペーン活動を実施している。

第 24 回となる平成 29 年度は、8 月 9 日、会員 60 人と生徒 30 人が参加して、国道 176 号線、府道宮津養父線、国道 312 号線などでゴミ拾いや除草などを行った。

この活動は、京都北部への観光客の増加に対応して、きれいな街並みや景色を保全することを目的としているが、同支部は、今後もこうしたボランティア活動を通じて、地元の人々と幅広く交流していきたいと考えている。



生徒とともに道路クリーンキャンペーン

事例 A4-04 : 山口県

河川・海岸の一斉清掃活動（山口県建設業協会萩支部）

山口県建設業協会萩支部は、平成 6 年より、「きれいなまち・萩推進市民会議」の一員として地域清掃活動に参加している。

平成 29 年度は、7 月 9 日、萩市内の河川・海岸一斉清掃に会員企業 23 社より総勢 36 人、2t ダンプ 13 台が参加して、市民が各地で刈り取った草やごみをダンプに積み込み、それぞれの処理場に運搬した。搬出量は可燃ごみ 19 t、不燃ごみ 15 t、刈り草 21 t の合計 55 t に上った。

同支部では、「きれいなまち・萩」を守ることは地域社会における建設業の重要な役割と考えており、今後もこの活動に積極的に取り組んでいきたいとしている。



山積みになった草の積み込み作業

(5) ふれあい活動

事例 A5-01：岩手県

小・中学校における体験学習の実施（岩手県建設業協会花巻支部青年部会）

岩手県建設業協会花巻支部青年部会は、平成 2 年より、「建設業ふれあいウィーク」（平成 4 年から「建設業ふれあい事業」と称して、花巻地区管内の小・中学生を対象に、重機試乗、測量体験等の体験学習を実施している。

この体験学習は、平成 30 年 4 月現在、開催数 36 回、参加した児童・生徒は約 3,700 名に上り、小・中学校からも高く評価されている。

若手経営者の育成、建設業の魅力の発信などを目的に設立され、平成 29 年に 30 周年を迎えた同部会では、今後も本活動をメイン事業の一つとして強化したいと考えている。



小学生の重機試乗体験



中学生の測量体験

事例 A5-02：秋田県

中学校の施設整備と重機試乗体験の実施（(一社)能代山本建設業協会）

能代山本建設業協会では、平成 26 年より、能代山本地域の中学校を対象に、学校側から要望のあった施設整備と重機試乗体験を実施している。

4 回目となる平成 29 年は、会員 7 社から重機 9 台を能代第二中学校に派遣して、陸上競技用のトラックと走り幅跳びの走路等を整備した後、3 年生 120 人の試乗体験を行った。

担い手確保と建設業への理解を深めることを目的に、東北地方整備局と秋田県の支援を得て始めたこの活動は、毎年好評価を受けていることから、同協会では、今後もさらに充実させ、継続したいと考えている。



整備されたグラウンドに集まる中学生たち



重機試乗体験

(6) イメージアップ活動

事例 A6-02 : 千葉県

小・中学生向け建設機械体験学習会の開催 ((一社)千葉県建設業協会)

千葉県建設業協会は、子どもたちに建設業の魅力をアピールするため、平成 5 年より、県内各地の小・中学生を対象に、建設機械体験学習会を開催している。

平成 29 年度は、6 月と 9 月の 2 回、延べ 330 人の児童・生徒を対象に開催した。子どもたちは、同協会青年部会の担当者から、建設業の仕事内容や安全第一の心構えを学んだ後、グラウンドでバックホウやコンバインドローラー、高所作業車に試乗した。車上では、各パーツの説明を受け、オペレーターの指示に従って実際の操縦を体験した。

同協会は、この学習会で子どもたちが建設業に興味を持ってくれることを願っている。



バックホウの操縦体験



高所作業車の試乗体験

事例 A6-03 : 山梨県

公園緑地のジャーマンアイリス植栽管理 ((一社)甲府地区建設業協会)

甲府地区建設業協会は、平成 18 年、甲府市内の河川敷公園と緑地にジャーマンアイリス 2,000 株を植栽し、毎年定期的な手入れや除草作業を実施している。

植栽箇所は、荒川千秋橋上流のサイクリングロード脇(約 300m)及び甲府市公園緑地課が管理する緑地 9 区画で、どちらも毎年 5 月になると、色とりどりのジャーマンアイリスの花が、道行く人々の目を楽しませている。

同協会は、建設業のイメージアップの一環として、この活動を継続したいとしている。



河川敷公園での除草作業



ジャーマンアイリスの花